

こんなことができます!

- ①豪雨・豪雪等の気象災害解析
- ②大気汚染の拡散・輸送解析
- ③局地気候変動解析
- ④風況調査



夢

未来に今より負荷の少ない環境を残す

共生システム理工学類

渡 邊 明

WATANABE Akira

特任教授 理学博士

研究室 URL

<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~may>

専門分野

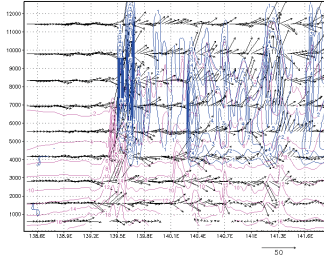
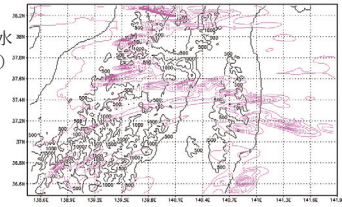
地球物理学（気象学）大気の大気循環、豪雨、豪雪等の気象災害及び大気汚染物質の輸送拡散に関する研究

特許情報、著書、論文

「日本気候百科」丸善出版、2018
 「身近な気象の辞典」東京堂出版、2011
 「風の辞典」丸善出版、2011
 「気候が変わる」歴史春秋社、2007

2017年7月18日線状降水帯の構造解析

右図：1時間降水分布（mm）



（左図）その東西一鉛直の立体構造
青い線は雪や水の分布量（g/kg）



強雨、突風、竜巻などの現象が顕在化し、2018年は、過去120年で最も高い気温の春を福島は経験しました。地球温暖化問題として括るかどうかは別として、確実に自然災害力は強化の一途を歩んでいます。現存する私たちが豊かであればよいとする時代から、時代を超えて公平な社会、持続的な社会創造が強く望まれています。原発震災からの復興もこうした観点からの地域づくりが重要です。そのお手伝いに力を注ぎます。

具体的なご提案

- ・温暖化予測と緩和策・適応策の検討
- ・風況調査
- ・気象災害に関する防災・減災の検討
- ・大気汚染防止対策の検討

これまでの取組事例

- ・福島県の地球温暖化予測で、1981年から2100年までの気温、降水量予測を行い、モモなどへの生産地適正予測をRCP2.6、RCP4.5、RCP8.5で実施
- ・地域イノベーション戦略支援プログラムで再エネ人材育成事業や風況調査を実施「小型風力発電システム用風況調査」ソフトの作成

教育
学習支援

健康
福祉
防災
都市計画

地域
産業振興

食・農

経営支援

ファイナンス

人材育成

法律

ライフ
サイエンス

情報通信

環境

ナノテク
材料

エネルギー

ものづくり
技術

社会基盤

フロンティア

